



宇城市長 阿曾田 清

子ども議会で
思うこと

8月8日、宇城市中学校の子どもたち30人による「子ども議会」が開催されました。
本市議会並みの形式で、議長選出から通告による質問がなされ、緊張感の中で行われました。10人が質問しましたが、各学校ごととみんなで話し合っ、課題を選び代表者が質問に立つというものでした。
私が感心したのは、子どもたちの身近で現実的な問題（松合の街灯、グラウンドや体育館の整備、教育予算の確保など）や、宇城市の将来に対する思い（アカデミーの誘致、戸馳大橋の架け替え、世界遺産への取り組み、こうのとりのゆりかごの対策など）の質問でありました。私も気付かないところもあり、大変有意義でありました。きっと、議員として参加された子どもたちは貴重な体験をされたことであろうと思いました。

最後に長田政敏教育長が講評の中で、
一、6月の本議会を傍聴し、子ども議会を実際に体験したこと、市政や議会制度の仕組みを理解してくれたこと、
二、議員がお互いに協力し、ふるさとと良さを課題を探し、堂々と質問してくれました。それぞれ大きな自信となつて、あらゆる面でリーダーシップを発揮してくれると確信しています。
三、他校の良さを自分の学校の良さを再確認してくれたこと、
四、どこにも負けない誇りにできる学校づくりは、自分たちの力で創りあげるものだと思ってくれたと思つています。
と述べられました。私は参加した子どもたちの礼儀正しい、堂々とした姿を見て宇城市の将来が楽しみだな、この子どもたちのためにも、良い宇城市を残したい！と実感しました。

にぎわった
夏祭りを終え

8月は一年で一番暑い時期、子どもたちは長期の休暇、親にとっては里帰り、先祖を迎えるお盆などで人が動く時期に祭りが盛んに行われます。
私たちが子どものころは、お宮の境内や公民館の広場、小学校のグラウンドで櫓（やぐら）

が生まれ、盆踊りがあつていました。昨今では地域に若者がなくなり、校区ごとの盆踊りも無くなりつつありますが、小川町では、今でも30数カ所の地区で祭りを実施しているのと、12日には弦巻と南部田に寄らせていただきましたが、予想以上に盛大なお祭りにびっくりいたしました。
現在、旧町ごとに開催されている5つの夏祭りには、旧町時代からそれぞれの町の音頭と踊りがありましたが、今年は旧町の特色を生かした「火の国ウキ音頭（作詞・作曲は岩城浩一さん、振り付けは藤間久斌さん）」を作成しました。加々山弘子婦人会長が中心となり、各婦人会や企業関係への普及に当たられ、市民の皆さまにサンパ調のリズムで軽快に踊っていただき、総踊りが大変盛り上がりました。
今後、このウキウキ音頭を全宇城市民が踊れるイベントができればと考えるものです。
組織の心も形も、溶け込んで宇城市が真の新しい市になることを願っております。

※10月の市長談話室は5日の予定です。参加ご希望の方は、総合政策課（☎3211803）へ9月20日までにお申し込みください。



市派遣職員が、今の仕事や市外から見た宇城市の様子を報告します。
今月は、株式会社電通の内富裕登さんです。

皆さんは宇城市の魅力について、いったい何だと思えますか？
先日、東京湾大華火（はなび）祭りが開催されました。この大会は晴海埠頭とレインボーブリッジの間で打ち上げられる海上花火大会です。花火は約1万2千発、観覧者数も約71万人と都内屈指の規模を誇る花火大会です。大規模なトラの尾の連発、空中ナイアガラのほか、都内の花火大会では珍しい巨大な玉「一尺五寸玉」などが見られます。

苑花火大会など。
実はこの花火大会は「中央区の魅力」を顕在化させるためのイベント」として位置付けられているそうです。私としては、正直「中央区がそこまでして、おごることなく、常に魅力を発信している姿勢は、同じ自治体として手本にするべきことではないでしょうか？ また、江東区の協力による地域連携も成功の秘訣だと思います。

では、宇城市の花火事情はどうでしょうか？ 今は合併5町それぞれの単位で開催されていますが、私自身は本当にそのままでいいのかという疑問を持っています。この花火の本来の趣旨を考えた場合、やはり市として一つに集約して、九州最大の花火として全国に発信してみたいはどうでしょうか。例えば、隣の上天草市と連携や不知火海を取り囲む市町と連携した海上花火など、とても面白いと思います。「宇城市の魅力が何なのか？」顕在化していないため気付かないのなら、顕在化させればどうでしょう。そのために、まずは市民自ら旧町間の壁を壊して、それぞれが「チーム宇城市」のメンバーとして自覚、行動することが大切になるでしょう。

皆さんよろしくお願ひします

市内小中学校の児童生徒の国際感覚と外国語能力向上のため、導入しているLT（外国語指導助手）制度。7月に任期満了となった4人の後任に、9月から新たに2人が教壇に立ちます。見かけたら笑顔で声を掛けてあげてくださいね。

Alexander Twieg アレキサンダー・トウイグさん



みなさんにお会いできるのを楽しみにしています。

南アフリカ、ナイズナ出身の26歳。大学での専攻は歴史学、自然科学。

主な勤務校：松橋中学校

趣味：プラモデル、アニメを見ること、空手、サーフィン

特技：空手

好きな食べ物：ラーメン

好きな言葉：We are all human!

市の印象：すばらしい。緑が多く、自分の住んでいる所とよく似ている。



Timothy Neve テイモシー・ニーベさん

私はとても光栄に思っています。私は、日本語が習得できるようになりたいし、そしてみなさんが英語を話せるように手助けをしたいと思います。

ニュージーランド、オークランド出身の25歳。大学での専攻は医学。

主な勤務校：三角中学校、不知火中学校

趣味：ピアノ・ギターを弾くこと、サッカー

特技：ピアノを弾くこと

好きな食べ物：ギョーザ、照焼きチキン

将来の夢：日本語が話せるようになること。

市の印象：すばらしい。みなさんフレンドリー



子ども議会

本番さながらの答弁
宇城市中学生による子ども議会

8月8日、市役所新館議場において中学生による子ども議会が開催されました。

市内に5校ある中学校から1校あたり6人、計30人の子ども議会議員が選出され、まちづくりなどに関する質問に、市長や各担当部長が自ら答弁する一般質問形式で実施しました。

議長役も生徒が務め、30人の子ども議員たちが、それぞれ登壇。「都市計画」「安全対策」「市内の農産物」「子育て・介護支援」「環境問題」などについて質問を行いました。対面方式による活発な質問に、市長はじめ各担当部長は本番の市議会さながらに答弁をしました。

傍聴者からは「子どもたちがみんなしっかりとした考えを持って参加されていることに驚きました。これからは子どもたちの目線で感じたことや困っていることなどを、子ども議会で大人たちに伝えてほしい」との声が聞かれました。



市執行部に10の質問がありました。